

NEWS RELEASE

関西国際空港株式会社

経営戦略室広報 G

TEL : 0724-55-2201

FAX : 0724-55-2052

2004年（平成16年）7月21日

平成16年中間期（6月）の沈下観測結果について

標記について、関西国際空港株式会社HP（<http://www.kiac.co.jp>）に別紙の通り公開しましたのでお知らせいたします。また、観測データにつきましては、弊社広報グループにて閲覧できますことを併せてお知らせ致します。

なお、今後の中間期（6月）の沈下観測結果については、関西国際空港株式会社HPでの公開を考えておりますのでご承知下さい。

お問い合わせ先

施設整備本部工務部長

TEL : 0724-55-2183

〃 工務部担当部長



平成16年中間期(6月)の沈下観測結果

(1) 1期島の沈下状況

当社は、昭和62年1月の1期島の工事開始から現在に至るまで、島内各地の17点で沈下の状況を継続的に観測しています。

平成16年6月の観測結果は以下のとおりです。

- ・ 今回の観測結果は表-1のとおりであり、粘土の厚さの違いや埋め立てた重さの違い等によって各点の沈下量には幅があるものの、工事開始からの平均の沈下量は12.24mでした。この沈下のうち、開港までに9.82mの沈下が終わっており、開港からの沈下量は2.42mです。
- ・ 17点の平均沈下量を見ると、開港時には年間50cmの沈下であったものが、年々3~4cmずつ減少し、平成15年1年間では14cm、平成16年6月までの半年間では6cmへと、沈下は順調に収束傾向にあります。
- ・ なお、島内の代表点12点の地盤高の観測結果を表-2に示していますが、滑走路・エプロン・誘導路は3~4m程度、旅客ターミナル地区が2.3m、給油タンク地区が1.3mです。地盤高が低い旅客ターミナルビル周辺地区および給油タンク地区等は、地下水対策によって、空港機能に問題がないように維持管理を行っています。

(2) 今回の測定結果について

当社は、平成13年1月に公表した今後の沈下の見通しにおいて、開港後の沈下の減少傾向からみると、最終的な沈下は12~12.5m程度と当初予測と大きくずれずに収束するとの考えを示しました。

沈下の状況判断は、測量の精度を考えると1年間のデータをもって行う必要があると考えていますが、今回の測定結果においても、依然、減少傾向が見られており、平成13年1月の見通しに沿った沈下状況にあります。

今後とも、学識者の意見を伺いながら、沈下の状況を注意深く監視することとしています。

平成16年中間期(6月)の沈下観測結果

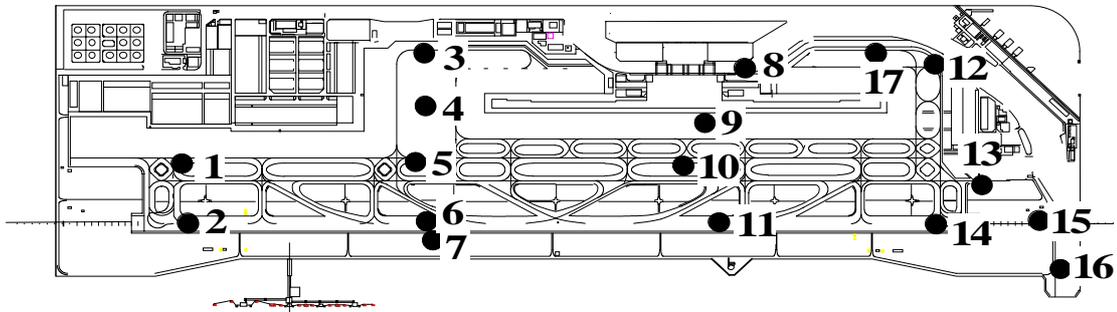
(1) 島内17点の工事開始からの沈下量

表 - 1

(単位:m)

計測日	測 点																	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	平均
H15.12	11.13	10.19	13.36	12.91	12.21	11.17	10.90	13.54	13.02	12.08	10.71	13.25	13.02	12.69	12.98	9.29	14.64	12.18
H16.6	11.20	10.25	13.43	12.98	12.27	11.22	10.95	13.60	13.08	12.14	10.75	13.33	13.10	12.77	13.05	9.33	14.71	12.24

(注) 埋立地盤の圧縮量(0.5m)を含む。

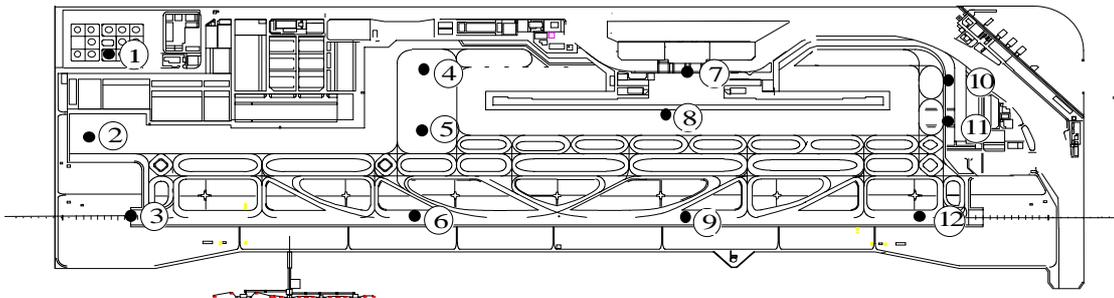


(2) 12点の地盤高

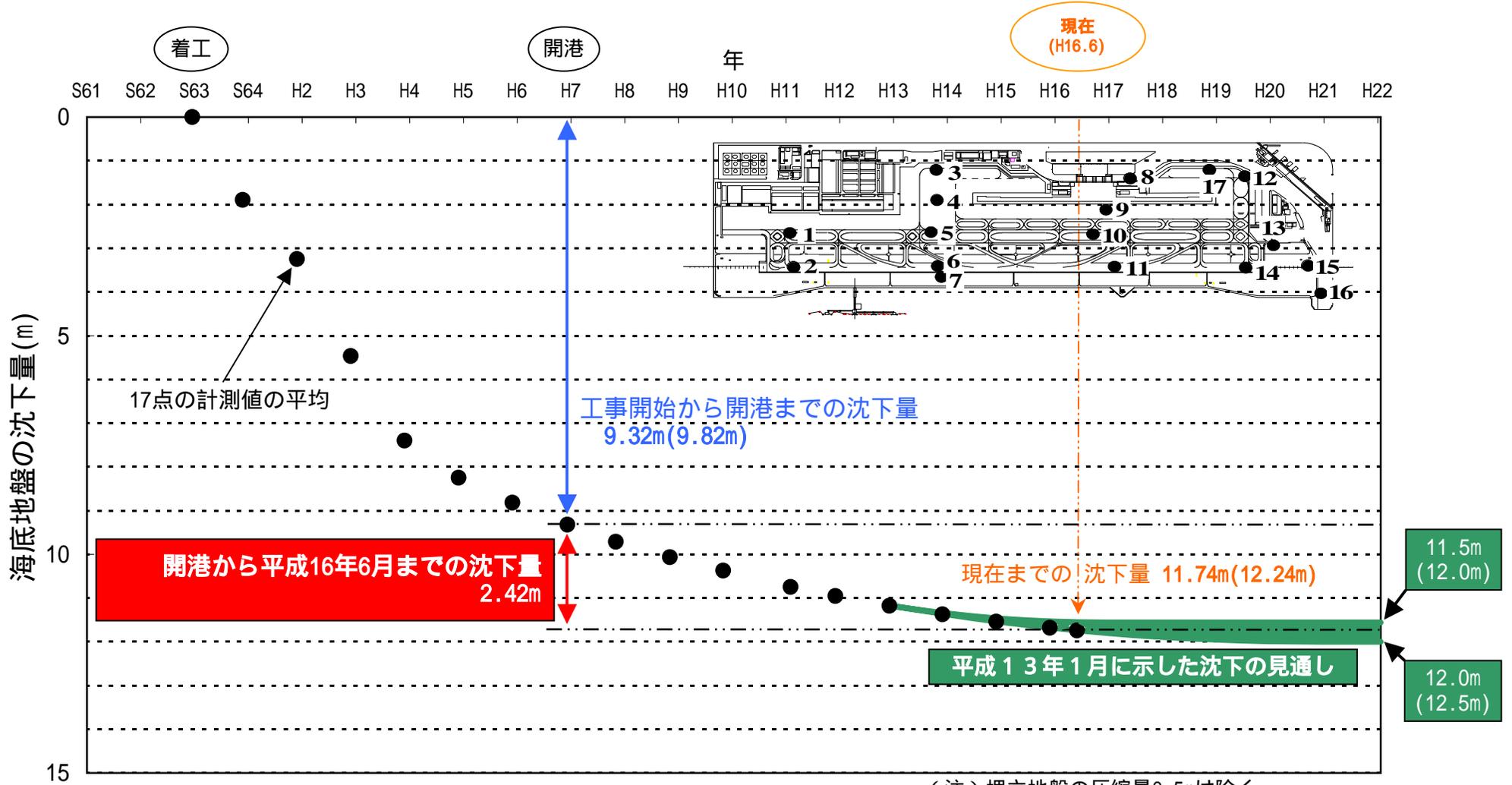
表 - 2

(単位:CDL+m)

測量日	測 点											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
H15.12	1.41	2.65	3.30	3.18	3.09	3.06	2.37	3.71	3.24	4.28	4.32	4.50
H16.6	1.32	2.57	3.23	3.11	3.03	3.00	2.34	3.66	3.19	4.20	4.25	4.42



空港島の沈下状況



(注) 埋立地盤の圧縮量0.5mは除く
 ()内は埋立地盤の圧縮量を含めた場合